

中小企業景況調査結果(平成26年4~6月期)

中小企業の業況は、小幅低下の状況にある。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成26年4~6月期実績と平成26年7~9月期見通しについての調査結果(回答数86社、回答率86%)をまとめた。本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期▲14%→▲15%とマイナス幅が拡大し、5期ぶりに悪化した。消費税増税後の影響がでたものと見られる。7~9月期の見通しについては、横ばいの見通し。業種別にみると、製造業:18%→25%、建設業:14%→8%、小売業:▲27%→▲28%、サービス業:▲23%→▲17%であった。

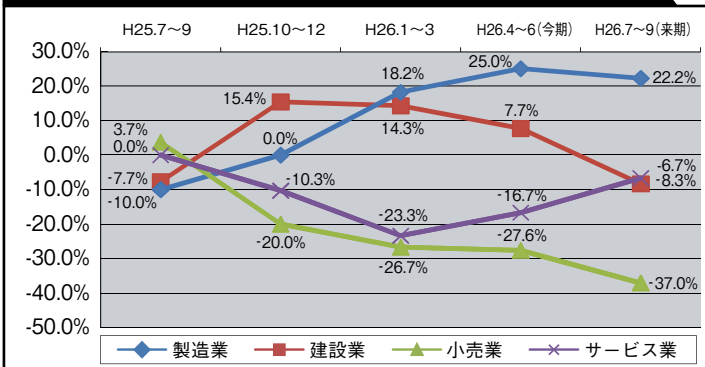
前回の調査時点では、新規設備投資を実施した企業は全体の20%であったが、今期14%、来期の設備投資計画を予定している企業は15%であり、消費税増税後の駆け込み需要が一段落したものとみられる。

経営上の問題点については、今期も全業種が依然として需要の停滞を問題点として挙げており、今期も解消されていない。

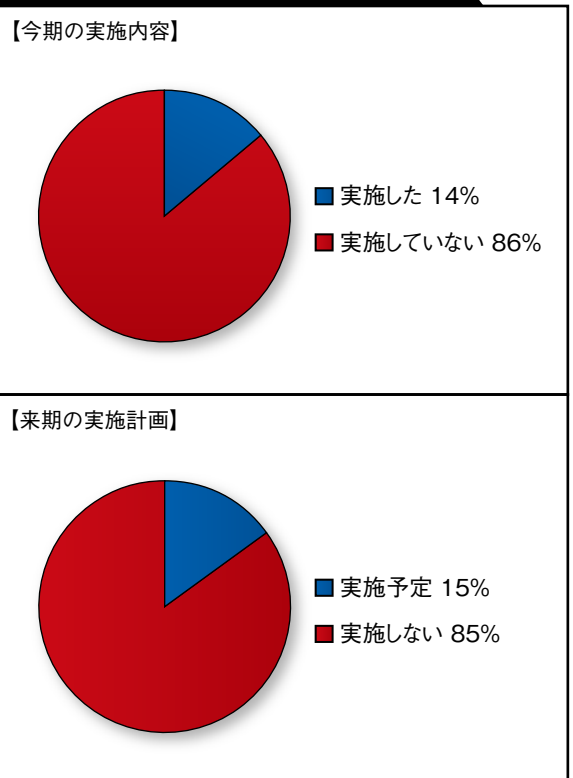
◆業況DI値(今期の状況)

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-15%	↘	-21%	↘	-5%	↗	32%	↗	-22%	↗	-8%	↘
製造業	25%	↗	10%	↗	0%	↗	89%	↗	-11%	↘	-20%	↘
建設業	8%	↘	17%	↘	23%	↗	38%	↘	0%	↗	0%	↗
小売業	-28%	↘	-28%	↗	-29%	↘	17%	↗	-41%	↘	-8%	↘
サービス業	-17%	↗	-34%	↘	7%	↗	25%	↘	-13%	↗	-7%	↗

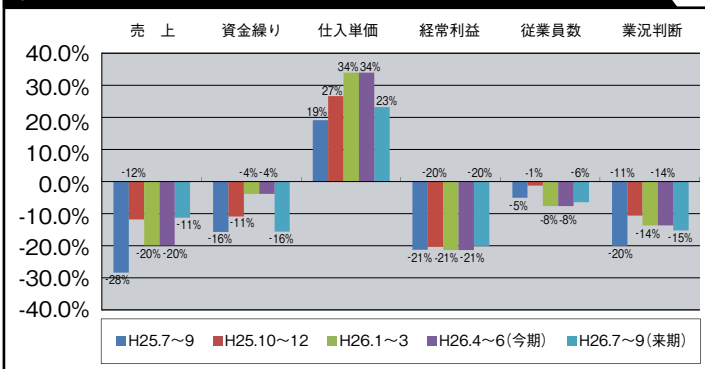
◆産業別業況判断DI(前3期からの推移と来期見通し)



◆新規設備投資(今期実施・来期計画)



◆全産業DI項目別比較(前3期からの推移と来期見通し)



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 20.0%	民間需要の停滞 12.1%	需要の停滞 17.1%	利用者ニーズの変化への対応 16.7%
2位	製品(加工)単価の低下・上昇難 16.0%	官公需要の停滞 9.1%	販売単価の低下・上昇難 9.2%	需要の停滞 12.1%
3位	新規参入業者の増加 12.0%	請負単価の低下・上昇難 9.1%	購買力の他地域への流出 10.5%	店舗施設の狭隘・老朽化 10.6%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。